





こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

戸など、こみせ通りの視覚的な印象的な表現をキーワード化すると「木造のひさし付の歩道・旧家・文化・酒蔵・和菓子屋さん火の見やぐら・水の流れ・そしてさりげない植栽」数十メートルの中町(こみせ通り)にキーワードが幾度となく視覚に飛び込んで来て、懐かしい空間にタイムスリップした感じでした。案内された2軒の酒蔵では、それぞれ試飲させて頂き、それぞれおみやげを購入したり、重要文化財の高橋家の奥様のコーヒーショップはコーヒーはもちろんのこと、会話もとても味わい深いものでした。

刹那の自由時間後の集合場所「こみせ駅」では、津軽三味線の生ライブを聴きながら「名物つゆやきそば」をほおぼる人あり、お土産を仕入れる人ありでした。あっという間の黒石散策でしたが「また別の季節に来てみたい」そんな気持ちにさせてくれた「こみせ通り」。その後「こみせ通り」の余韻に浸りながら、途中、また碇ヶ関に立ち寄り、嗅覚をそそる奥入瀬溪流育ちのいわなの塩焼きや、新鮮な竹のこなどを求めたりと楽しい時を過ごしました。また、今回、大切なものを「生かしたい・残したい・継続したい」思いが賛助会員の経済的な協力のもとに維持されている「まちづくり」を実感し、今後の活動を考えさせられた、五感フル活用の視察でした。

文：瀬尾 悦子

5月24日、総勢17名で黒石市「こみせ通り」視察へ行ってきました。すみれ会では、ほっとステーションやその周辺を木のぬくもりのある憩いの空間にしようとして活動してきました。黒石市のこみせ通りは江戸時代から続く造り酒屋、呉服屋、餅屋などが当時のままだに残り、こみせのある情緒溢れる町並みとなっています。まち全体で保存や復元に取り組み、それが新しい町づくりにつながっているということで、すみれ会のこれからの大いに役立つのではと楽しみにしていました。

お昼のあと、こみせ駅でボランティアガイドの大平さんと待ち合わせて、いよいよこみせ通りを案内してもらいます。まず「こみせ」とは今のアーケードと同じようなものと説明されました。商店や家の道路側に一間おきに柱が並び、その上に庇状の屋根が載っています。このこみせは雨や夏の強い日差し、冬には柱の間に「しとみ」と呼ばれる板をはめて雪や吹



NHK ドラマのロケ地にもなった大きな酒林が目印の中村亀吉酒造(上)と重要文化財に指定されている高橋家(下)。



雨の日も雪の日もこみせの下なら傘なしで濡れることなく歩いていけます。



100円回遊バスのバス停も町並みに合わせたデザインになっています。





## こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

雪から人々を守ってくれます。先人の知恵と工夫があちこちで見られ、今のアーケードと機能は同じでも一間おきに並ぶ整然とした美しさと、内でも外でもない不思議な空間の心地良さは比べようがないなあと思いました。

それから、大きな酒林が吊るされた中村亀吉酒造、高橋家、鳴海家の家と庭を案内してもらったのですが、どこか懐かしい気持ちになり、タイムスリップしたような感覚で本当に良く残っているなあと感じました。

水のいい美味しいところということで、試飲したお酒も高橋家で食べたお汁粉も絶品！何よりも大平さんや酒造店、鳴海家のおかみさんのゆったりとした優しいひびきの津軽弁が何とも言えず、素朴で人柄のいいもてなしにまた来たいなあという気持ちになるのです。

こみせの町並みは、そこに住んでいる町の人々が愛着を持って大事にしてきたから残っているのですね。私たちの町にも百年経っても大事にしていける、できれば木を使った新しい町並みを提案していけたらなと思っています。また高橋家の土間の喫茶でお汁粉を食べて、おかみさんの素敵なお話を聞きたいなあ。皆さんも一度出かけてみてくださいね。

文： 平山 はるみ

上町すみれ会よりお誘いいただき、常盤ときめき隊からは私を含め4人が参加いたしました。

津軽茶道美術館の視察を皮切りに、間に昼食をとり、いよいよ「こみせ通り」の視察。骨休み(?)のつもりで参加した私は「こみせ通り」裏側の広場が一番気に入りました。屋根付きの散策コースでそばを水路が流れており、最後の池には鯉が泳いでいました。また、消防署の火の見やぐらが見えて、感動いたしました。

とても有意義な一日を過ごさせていただき、本当にありがとうございました。

文： 高橋 幸子



理右衛門小路は通りの要素、こみせと水路を取り入れてきれいに修景されています。



黒石といえば、黒石よされ。津軽三味線のライブ演奏も楽しめます。



甲徳兵衛町の火の見やぐら。懐かしいデザインですが、現役です。このほかデザインの違うものが3つあります。